

1 図書館の動き

1.1 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）への対応

(1) 開館日数・入館者数等

新型コロナウイルス感染症は依然として国内外に蔓延し、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の適用と解除を繰り返す中で、大学はそれに応じた活動制限指針レベルを設定し、図書館もその動きを注視しながらの運用となった。国内や学内でもそのような不安定な状態ではあったが、図書館は昨年度末から引き続いて感染防止対策（館内各所に OA クリーナーや消毒液を設置や定時に空いている席及びトイレなどの清掃）を徹底しつつ、閲覧席等の間引き、グループ閲覧室の利用停止（年度末に徐々に利用再開）、学内者のみによる利用制限を引き続き実施することで館内の三密の回避をしながら運用を行った。開館時間に至っては、前述の利用者制限等をしているものの、コロナ禍以前と同じ開館時間と開館日数で運用し、2020 年度のような臨時閉館や短縮開館、予約制による利用制限は行わなかった。なお、学外者（附属校生徒、校友、リバティアカデミー会員、地域住民、明治大学カード会員、博物館友の会会員、紹介状利用等）の利用については、本学活動制限指針で入構が制限されているため、2020 年度に引き続き利用不可とした。また、長らく利用ができない外部利用者のうちリバティアカデミー会員の利用者については、2020 年度の登録料を支払っているにもかかわらず 2020 年度に引き続き 2021 年度も利用再開の目途が立たないことから、利用を制限して利用できなかった日数を日割り計算し、返金対応を行った。

ローライブラリーにおいては、2020 年度はほとんど臨時休館としていたが、2021 年 4 月 1 日より通常開館を開始した。

(2) 教育・研究支援

●利用サービス

2020 年度中に実施した各種郵送サービスを 2021 年度も適宜実施した。全学生に対しては、春学期の定期試験期前に新型コロナウイルスの感染状況が悪化し、大学の活動制限指針も「レベル 1」から「レベル 2」に上がったことに鑑み、学生に対して春学期のみ郵送サービス（図書貸出、雑誌複写（所蔵雑誌論文の複写）、ILL 複写）を実施した。また、大学の制度として在宅での受講を認める「在宅受講特別配慮制度」が実施されたことにより、配慮認定者に対して郵送サービス（図書貸出、雑誌複写（所蔵雑誌論文の複写）、ILL 複写、図書複写（※留学生のみ））を実施した。

学生への郵送サービス（春学期のみ実施 サービス期間：7/14～7/31）

		学部生	大学院生
図書郵送貸出サービス	(人)	106	24
所蔵雑誌複写郵送サービス	(件)	7	15
ILL 複写	(件)	3	5

在宅受講特別配慮認定者への郵送サービス

（春学期サービス期間：7/14～7/31 秋学期サービス期間：10/1～2/3）

		春学期		秋学期	
		学部生	大学院生	学部生	大学院生
図書郵送貸出サービス	(人)	11	5	72	5
所蔵雑誌複写郵送サービス	(件)	1	12	22	35
ILL 複写	(件)	0	0	1	2
図書複写（留学生のみ）	(件)	7	6	2	0

●新レファレンスサービスの実施

コロナ禍の状況下でレファレンスサービスの利用がしづらいという点について検討し、実施中のメールによるオンライン・レファレンスと並行して年度末に Microsoft Forms を利用したフォームによるオンライン・レファレンスを開始した。

●書評コンテストおよび図書館講演会のイベント再開

2020 年度はコロナ禍により中止となっていたが、2021 年度は第 11 回目の「書評コンテスト」を再開した。また、このコンテストへの参加を促すため、「書評の書き方講座」も再開し、オンラインで実施した。なお、書き方講座については一定期間動画配信も行った。

2021 年度は、新たに図書館講演会として、(株)読書人の協力のもと「読書人カレッジ」を中央図書館で 2 回、和泉図書館で 2 回実施した。中央図書館での実施はオンラインのみ、和泉図書館での実施はオンラインと対面でのハイブリッド方式での実施となった。

これらの図書館イベントは、少しずつではあるが、コロナ禍情勢や大学の活動指針に配慮しつつ、オンラインを交えて対面でも実施することができた。

●本学図書館の開館状況およびサービス対応等

2021 年 4 月 1 日	【活動制限指針レベル 2 → 1】 各キャンパス図書館通常開館 ローライブラリー通常開館を再開
4 月 25 日	【活動制限指針レベル 1 → 2】 図書館の運営は変更せず通常開館で運用
5 月 24 日	在宅受講特別配慮認定者に対して、以下の各種郵送サービスを開始（～ 7/31 まで） ・図書郵送貸出 ・雑誌複写郵送（所蔵雑誌論文の複写） ・ILL 複写郵送 ※郵送希望者のみ
6 月 21 日	【活動制限指針レベル 2 → 1】
6 月 28 日	在宅受講特別配慮認定者で海外に居住している方に対して、以下の郵送サービスを開始（～ 7/31 まで） ・図書複写
7 月 7 日	第 1 回読書人カレッジ 講演者：小林エリカ氏 場所：中央図書館 ※オンラインのみ
7 月 12 日	【活動制限指針レベル 1 → 2】 図書館の運営は変更せず通常開館で運用
7 月 14 日	全学生に対して、以下の各種郵送サービスを開始（～ 7/31 まで） ・図書郵送貸出 ・雑誌複写郵送（所蔵雑誌論文の複写） ・ILL 複写郵送 ※郵送希望者のみ
10 月 1 日	在宅受講特別配慮認定者に対して、以下の郵送サービスを開始（～ 2022/2/3 まで） ・雑誌複写郵送（所蔵雑誌論文の複写） ・ILL 複写郵送 ※郵送希望者のみ ・図書複写 ※海外に居住している方のみ 第 11 回「書評コンテスト」作品応募開始（～ 10/31 まで）
10 月 7 日	在宅受講特別配慮認定者に対して、以下の郵送サービスを開始（～ 2022/2/3 まで） ・図書郵送貸出
10 月 8 日	第 2 回読書人カレッジ 講演者：佐々涼子氏 場所：中央図書館 ※オンラインのみ
10 月 11 日	【活動制限指針レベル 2 → 1】 ※ 2022 年 4 月以降も継続中
11 月 19 日	第 3 回読書人カレッジ 講演者：木村友祐氏 場所：和泉図書館ホール ※対面およびオンライン
12 月 10 日	第 4 回読書人カレッジ 講演者：奥野克巳氏 場所：和泉図書館ホール ※対面およびオンライン

12 月 20 日	第 11 回「書評コンテスト」受賞者発表
2022 年 2 月 3 日	第 11 回「書評コンテスト」表彰式 ※対面およびオンライン
3 月 10 日	フォームを用いたオンライン・レファレンスサービス開始 (対象：専任教員、専任職員、特任教員、客員教員、研究推進員、大学院生、学部学生)

1.2 予算枠組み見直しの取り組み

本学図書館では、近年多様化が進む電子資料を購入するにあたり、これまでの資料区分や予算区分に何とか収めてきたが、各資料に対する申込方法・選定方法・予算などが曖昧になってきていた。そこで、現在流通している資料の特性に沿った形に整理するため、予算費目の新設と、申込・選定・予算の枠組みの見直しを行った。

検討にあたり、図書館総務事務室内にプロジェクトチームを立ち上げ、各館発注担当や雑誌担当と都度意見交換を行った。主な変更点は、買切の電子資料を購入するための予算費目を新設したこと、電子媒体の資料（電子ブックを除く）及び雑誌（バックナンバーを含む）の選定は、電子資料分科会で一括して行うこと、研究用として教員が購入を希望する資料は全て、図書委員を通して学部・研究科の優先順位を付けて申し込むこと（ただし 30 万円以下の図書・電子ブックを除く）である。

1.3 電子資料の利用規約違反への対応

本年度、大学が契約する複数のデータベースにおいて、利用規約に違反する行為が確認された。違反内容は主に以下のとおりである。

- プログラムを使用した不正アクセス
- データの大量ダウンロード
- データの蓄積（保存）
- 言語解析のためのデータ利用

これを受けて、図書館では次のとおり様々な再発防止の取り組みを検討・実施した。

- ①学部長会、各学部教授会及び事務部長会での事例共有
- ②図書館ホームページ上で「オンライン情報源」を利用する際に注意事項がモーダルウィンドウで表示されるように設定し、ホームページ各所に禁止事項を表記
- ③ Oh-o!Meiji で全学生に向けて、定期的に「オンライン情報源」利用上の注意を配信
- ④「図書館活用法」や各種ガイダンスで、利用上の注意や禁止事項を周知
- ⑤「明治大学総合情報ネットワーク（MIND）利用上の遵守事項ガイドライン」の注意事項及び「MIND 講習会テキスト」の違反事例として掲載
- ⑥教員向け研修（FD 研修）の実施
- ⑦図書館ホームページのニュースに、利用者向け警告文の掲載

1.4 読書人カレッジの開催

読書人カレッジとは、(株)読書人が日本財団と共同で立ち上げた企画で、「週刊読書人」の執筆者である作家、研究者、書評家などが、大学生に向けて、本の選び方・読み方、伝え方など、読書に関する講義（講演）を実施するイベントであり、2021 年度から開始された。本学のほか、関東圏のいくつかの私立大学が参加している。

本学では、第 2 回図書館スタッフ会議（2021 年 4 月 21 日）で、この講演会について審議がなされ、読書推進の観点から開講が望ましいとの意見を踏まえ、図書館のイベント形式（図書館講演会）で 4 回程度開講すること、大学が横断的に実施している「明大生のための！！学生生活充実サポート」の図書館イベントとして調整することが承認された。さらに図書館リテラシーイベントWGで検討を進めることが決まった。なお、コロナ禍となり制限された中での初めての図書館講演会となった。

検討の結果、2021 年度は 4 回実施、新型コロナウイルス感染症の状況をみて、オンラインまたは対面で開催することとした。上記WGで、講師の選定を進め、講師との事前打ち合わせ、広報、司会進行、Zoom 関係

作業、質疑準備、アンケート実施・報告作成、対面でも実施する場合は、会場設営、受付などを分担した。講師への連絡や調整は、(株)読書人の担当者を介して行われた。

実施各回については、次のとおりである。参加者は4回合計で204名であった。

日時	概要	参加者数 / 参加申込者数 ※ 1	開催方式
第1回 7月7日(水) 12:35～13:25	講師：小林エリカ氏(作家、マンガ家) 場所：講師は学外、関係者は中央図書館多目的ホール 内容：講演者自身のお仕事(マンガ、小説のほかに、美術館でのインスタレーション展示など)、読書などについてのお話。	70名 / 112名	Zoom
第2回 10月8日(金) 12:35～13:25	講師：佐々涼子氏(ノンフィクション作家) 場所：講師、関係者とも中央図書館多目的ホール 内容：「一生モノの読書をしよう。誰かの実人生を知るノンフィクションのインパクト」実話であるからこそ、読み終わった後の人生に大きな影響を与える。ノンフィクションの奥深い世界を知ろう。	46名 / 78名	Zoom
第3回 11月19日(金) 12:35～13:25	講師：木村友祐氏(作家) 場所：和泉図書館ホール 内容：実は「活字に抵抗」がありながら作家をしているので、読書が苦手という入口から講座を始めたい。対話を通して、一緒に一冊の本を読んでいきたい。	37名(11名) / 63名(20名)	Zoom 及び 対面
第4回 12月10日(金) 12:35～13:25	講師：奥野克巳氏(立教大学異文化コミュニケーション学部教授) 場所：和泉図書館ホール 内容：「知の交差点」。文学作品から文化人類学、世界や人間を考える講座。	51名(16名) / 74名(16名)	Zoom 及び 対面

※ 1 カッコ内はうち対面参加者数 / 対面希望申込者数

開催当日について、第1回と第2回はZoom開催のみだったが、第3回と第4回はZoom開催と和泉図書館ホールでの対面開催も実施した。会場参加者はそれほど多くはなかったが、熱心な学生が直接、講師に質問をするなど活発な意見交換があった。参加申込み時に、講師への質問も受け付けた。内容をみると、自分も作家になりたい、読書について悩みがある、講師の作品やその制作に興味があった、講師が紹介する作品に興味があるといった学生が参加していたことがわかった。参加者アンケートの集計結果(4回分合計)の、満足度についての回答では、満足が60.6%、やや満足が28.5%であり、満足度は高かった。

読書人カレッジは、2022年度も継続され、本学も参加することが第9回図書館スタッフ会議(2021年12月15日)で決まった。

1.5 生田新図書館について

2020年度から生田キャンパス第二中央校舎(仮称)建設計画として、生田新図書館建設計画が進行している。生田新図書館は従来のような図書館だけの独立棟ではなく、生田キャンパス第二中央校舎(仮称)として、教室及びラーニングコモンズとの複合棟となる。

生田キャンパス第二中央校舎(仮称)の設計の基本コンセプトとして、建物全体を学修空間として捉え、施設全体を設計することにする。これにより、多様な学修スタイル、利用の仕方を可能にする空間を、教室・図書館・ラーニングコモンズ全体で計画していく。さらに、生田キャンパス第二中央校舎(仮称)が、個人、グループ、パッシブ、アクティブな学習の場として、多様な利用シーンに応えられる学習環境として存在し、施設全体が活発的な「学びの場」となるよう計画する。

2021年度は、設計会社を決めるための設計プロポーザルが実施された。これにより設計会社が決まり、基本設計策定に向けた検討を進めた。

1.6 雑誌除籍方針の策定について

本学図書館では雑誌は通巻で所蔵することが望ましいという考え方などから、これまで原則として雑誌の除籍は行っていなかった。しかし、電子媒体の雑誌が増えていること、また、書庫狭隘化が進み資料保管スペースの確保が大きな問題となっていることなどから、今後は雑誌も除籍を行うこととして、そのための方針及びマニュアルを策定した。

「明治大学図書館雑誌除籍方針」は図書館総務事務室及び各館の雑誌担当者で原案を作成し、第 6 回電子資料分科会（2022 年 2 月 25 日）にて承認され、第 4 回図書委員会（2 月 28 日）で報告された。

1.7 山手線沿線私立大学図書館コンソーシアムへの専修大学の加盟について

山手線沿線私立大学図書館コンソーシアムは、山手線沿線の 8 つの私立大学図書館による相互協力コンソーシアムとして 2000 年 3 月に締結された協定である。加盟館は設立当初から 8 大学であったが、2021 年 4 月より、専修大学図書館が新たにコンソーシアムへ加盟し、9 大学間によるコンソーシアムとなった。

1.8 新図書館ホームページ英語版の公開

2019 年度末に日本語版の図書館ホームページを更新したことに伴い、日本語版と同様に大学ホームページのテンプレートにて、2021 年 5 月 21 日に英語版の図書館ホームページをリニューアルした。英語版においても PC / モバイル両対応できるレスポンスデザインでの公開とした。

1.9 蔵書を活用した調査研究

成果物の刊行については、2019 年度から計画が一時中断断念していたが、『明治大学図書館所蔵 三条西家本 除目書』として、2021 年 5 月 31 日に刊行することができた。

一方、所蔵資料の調査・研究を委嘱する制度により活動している蘆田文庫研究会及び城市郎文庫研究会の 2 つの研究会については、研究会メンバーのうち学外研究者が新型コロナウイルス感染症の影響で入構できなかったこともあり、実質的な活動は行えなかった。

1.10 デジタルアーカイブシステムの検討開始

貴重な蔵書を地域社会に還元する計画として、デジタルアーカイブシステムの構築の検討を開始した。これに収録するコンテンツは、図書館の貴重資料のみならず、博物館及び大学史資料センターのコンテンツも対象とする計画である。